2013.4

■ 学生の成功に向けた「やる気」と「安心」
■ 平成25年度学内版GP採択結果
■ スタッフからひとこと

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 高等教育研究センター

学生の成功に向けた「やる気」と「安心」

1. 新入生を迎えて

４月，新しい学生を迎える時，皆，これから始まる大学生活へ目を輝かせてやって来ます。その目の輝きに応えることが，私たち大学に籍をおく者全ての一番の使命であり責任であると痛感する時でもあります。しかし，少なからぬ学生は，時に悩み，時につまずき，挫折することもあるでしょう。もちろん，それを乗り越え別のあるいはより大きな「成功」を得られることもしばしばですので，悩んだりつまずいたりしても，悪いことではありませんし，むしろ学生時代のその様な体験は，長い人生の中で大いに役立つこともあるでしょう。この学生たちの目の輝きが時には翳ることがあっても，卒業の際には一皮むけた輝きを持って大学の門を出て行くことを願うばかりです。

この使命を全うするため，大学は何をしたら良いのでしょう？もちろん，適切な教育課程を整え，それを実施することが一番ですが，学生がそれをより効果的・効率的に利用し，より多くがより大きな「成功」に到達するため必要なものの一つに学生支援があります。「大学なのだから，自主的・自律的に行動することが当然で，他人の支援に期待することは不要」との考えも一理ありますし，そのような学生を育てることも大学の重要な使命です。しかし，学生は一様ではありません。多様な学生を受け入れれば，その悩み，そのつまずきも多様です。適切な支援があれば，十分目的を達せられる場合も少なくありません。大学が可能な範囲でこのような支援を行うことも，教育機関としては重要なことであるといえます。分かりやすい例としては，見えない，聞こえないといった体の障害がある学生への支援です。近年では，学習障害等の発達障害に関する支援にも光が当てられるようになりました。程度の大小に関わらず，何らかの妨げや不安があるのであれば，それを和らげたり取り除いたりする支援によって，到達目標を確保し，学習効果を上げることが期待されます。

もうひとつ重要な支援が，学生自身の「やる気」を起こすための仕掛けです。これも「自主的・自律的」論からは，不要かもしれません。しかし多様な学生の中で，独りで動ける学生は残念ながら限られているといわざるを得ません。ちょっとした後押しで動ける学生がいるのであれば，その様な支援によって学生を「成功」に導くことも考慮に値します。

2. 学習を支える「やる気」と「安心」

前置きが長くなりましたが，大学においてより多くの学生により大きな「成功」を得てもらうための仕掛けとして，「やる気」を喚起し支える支援と，様々な妨げや不安を和らげて「安心」して大学生活を送ることができるようにする支援について，何が必要で充実しなければならないかを検討していただくため，以下に事例を中心に情報を提供します。すでにニューズレター7号（2012年4月）で米国の「学習アドバイジング」について触れましたが，日本国内でも米国とは異なる環境の中で努力されている事例が多数あります。

2-1.「安心」を支援する

本学では，2013年度中に「学生支援情報の統括認証システム」を整備し，ICカード学生証による出欠管理とそれを用いた学生支援システムの構築を目指しています。鳥取大学では，「新入生ふれあい朝食会」が2004年度より実施されています。朝食会には学長も参加し，新入生が新しい環境になれる一助になっています。授業出席や朝食摂取をはじめとする安定した生活は，「安心」という意味では基本の「き」ですし，出欠管理は支援を必要とする学生の早期発見にも役立つ取組です。本学ではさらにアカデミックな支援についても部分的に取組まれてはいますが，以下に全学的に進められている事例を示します。

金沢工業大学では，自学自習へ導く仕掛けとして，電子化したポートフォリオ（KITポートフォリオシステム）が用いられています。学生はこのポートフォリオに学習成果を蓄積し，その学習を振返り，PDCAサイクルを回すことを体験し，成果を自覚していきます。これが，学習支援の仕掛けになっています。1年次には，「修学ポートフォリオ：1週間の行動履歴」を全員が作成し，自分のことを見つめなおし，文章を書くことで自己表現力を上げることを目指しています。その後，様々な場面の学習成果を蓄積，振返るポートフォリオを作成し，これが進級時の個人面談の資料となり，アドバイザー・教員の指導を受けることになります。これに加え，365日24時間利用可能な自

習室の整備や，基礎英語教育センター，ライティングセンター，数理工教育研究センター等の各種教育センターによる学習支援を実施しています。

ポートフォリオや学習進捗状況自己管理システムの導入は，その他，草分けである熊本大学の“SOSEKI”（熊本大学学務情報システム）や，進んだ事例である新潟大学の“NBAS”（新潟大学学士力アセスメントシステム）などもあります。金沢工業大学の取組が効果をあげているのは，システムの導入に加え，支援・相談体制の充実にあると評価されています。

研究大学も例外ではありません。東京大学は2008年に学生相談ネットワーク本部を設置し，全学的な学生相談・支援体制を整えています。この本部と連携する相談施設の中で，駒場学生相談所が学習支援の面で重要な活動を行っています。学習相談員は，大学院生（TA）であり，勉強の仕方など漠然とした質問から，具体的な授業内容についての質問なども受け付けています。東北大学でも，東大駒場同様，学生・院生を活用した学習支援サービスを行っています。SLA（Student Learning Adviser）という学習支援スタッフを中心に，全学教育（共通教育）を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています。対応している科目は，主に，物理・数学・化学と英語です。2010年に設置されたSLAサポート室には，専任の助手のほか，TA約3名，上級生（学部3年以上）約5名が常駐しており，学習相談に応じています。北海道大学のアカデミック・サポートセンターなども同様の取組を行っています。

2－2.「やる気」を支援する

「やる気」を喚起する支援も「安心」への支援に勝るとも劣らず重要で効果的なのですが，紙数の関係でキーワードを示すに留めます。

愛媛大学は「学生支援」を「大学憲章」に明記し様々な特徴ある取組をしていますが，その一つに学生の「やる気」を引き出す愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)があります。リーダーシップ関連授業，サークルリーダー研修会，ELSゼミナール，ELS合宿研修を通して，統率力や指導力やコミュニケーション能力の育成を図っています。

金沢星陵大学では，「自分を超える力をつける」を合い言葉に，学内・学外における様々な活動に目標を持って積極的に取組み，チャレンジし，卒業前に社会で役立つ基礎力を養うことを目的に2つのプロジェクトに取組んでいます。その一つ「ジャンプ・アクション」という取組では，全学生が4月のはじめに個々の目標を立て，年度の終わりに振返る機会を設けています。

（文責：矢部正之）

活動報告 平成25年度学内版GPヒアリングを開催しました／採択結果報告

平成25年度学内版GP選考のためのヒアリング審査が3月15日（金），全キャンパスへのSUNS配信による公開にて行われました。当日は書類選考を通過した12件の取組を対象として、10分のプレゼンテーション及び5分の質疑応答を行いました。各部局の申請者による熱意あふれる説明に対し、質疑応答では評価員から多くの質問が出されました。理事（教学担当），理事（国際交流担当），高等教育研究センター長，各学部・全学教育機構・法曹法務研究科から各1名ずつ選出された評価員による評価の結果，下記の10件が採択されました。

▲プレゼンテーションの様子

▼平成25年度学内版GP採択取組一覧

取組単位	取組名称	取組担当者(所属部局)
組織	人文ホールから世界へ：グローバル人材養成プログラムの開発	花﨑 美紀（人文学部）
組織	「ビブリオバトル」で自ら社会を科学する～「人類の知」「社会人基礎力」の涵養～	徳井 丞次（経済学部）
組織	信州大学自然科学館を拠点とする理数科教員・学芸員養成支援	太田 哲（理学部）
組織	専門分野におけるコミュニケーション力養成の試み	吉田 孝紀（理学部）
組織	海外牧場実習プログラム～学生の内向き志向の打開を目指して～	神 勝紀（農学部）
組織	疾患予防医学およびバイオ・メディカル研究を担う次世代研究者の育成	新藤　隆行（医学系研究科）
組織	実践的英語コミュニケーション力をもつ高度専門技術者を育成する教育課程の構築	平林 公男（繊維学部）
個人	「信大YOU遊未来」20周年記念シンポジウムの開催	土井 進（教育学部）
個人	地域づくりを牽引する技術者育成教育 ―技術者の複眼的感性涵養のための「まち」なかキャンパス	土本俊和（工学部）
個人	北杜夫コレクションを活用した約70年間の中部山岳域における環境変遷の把握	東城 幸治，佐藤 利幸，藤山 静雄，市野 隆雄（理学部）

スタッフからひとこと

今年は桜の開花が随分早いようです。そしてキャンパスも新入生を迎えることになり，活気が戻ってきます。学生が存在してこそ大学なんだなと改めて感じさせるこの頃です。

（学務課主査　奥原　忠孝）

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 高等教育研究センター
■〒390-8621　長野県松本市旭3-1-1
■TEL：0263-37-2194（担当：学務課教務グループ）
■MAIL：campus-rche_info@shinshu-u.ac.jp
■URL：http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/rche/